

論 文

看護方式の違いによる
受け持ち看護婦の責任感の調査
—看護内容別に比較して—

藤田 恵子・伊戸川佳子・柴田 明子
(国立金沢病院)

Research on Responsibilities Felt by Nurses
for Nine Particular Nursing Actions
—Differences among Three Nursing Modalities—

Keiko Fujita, Yosiko Itogawa and Akiko Sibata
Kanazawa National Hospital

要 旨

我々は看護の継続性や一貫性、患者ケアに対する責任の明確化を目的に、受け持ち方式を併用したチームナーシング、固定チームナーシング、小人数看護婦受け持ち方式で看護を行っている。そこでこれらの看護方式の違いにより、受け持ち看護婦の責任の感じ方が異なるのかを、看護内容別に調査検討した。

3つの看護方式ともに、看護計画立案や評価・修正、カンファレンス、患者指導、サマリー記載などに責任を感じていた看護婦が多く、ケア実施に責任を感じるものは少なかった。また固定チームナーシングは他の2方式と比べて、データベース作成、看護計画立案について責任を感じるものが多く、小人数看護婦チームの場合には、チームナーシングに比し、責任を感じる看護内容が多かった。

今後はこれら看護方式による責任の感じ方の違いを念頭において、さらに各看護方式における受け持ち看護婦としての責任の追求に向けて取り組んでいく必要があると考える。